古典Ａ　漢文「十八史略」―水魚の交わり―

２年　組　番　なまえ【　　】

☆学習の目あて
＊句法に留意して内容を正確に読み取る。
☆ワークシートについて
・内容のまとまりごとに書き下し文を参考にして、口語訳をしてください。
・教科書の脚問も含めて設問があります。よく考えて答えを書いてください。

【書き下し文】

瑯琊の諸葛亮、襄陽の隆中に寓居し、毎に自ら管仲・楽毅に比す。備　士を司馬徽に訪ふ。徽　曰はく、「時務を識る者は、俊傑に在り。此の間自づから伏竜・鳳雛有り。諸呵孔明・龐士元なり。」と。徐庶も亦　備に謂ひて曰はく、「諸呵孔明は臥竜なり。」と。

Q1　諸葛亮が、「自比管仲・楽毅」していたのは、どのような心情からか。

【口語訳】

瑯琊の諸葛亮は、襄陽の隆中山の麓に（①　　）し、ことあるごとに自分を斉の桓公を覇者にさせた管仲や戦国時代の名将軍、楽毅に（②　　）ていた。

【書き下し文】

備　士を司馬徽に訪ふ。徽　曰はく、「時務を識る者は、俊傑に在り。此の間自づから伏竜・鳳雛有り。諸葛孔明・龐士元なり。」と。徐庶も亦　備に謂ひて曰はく、「諸葛孔明は臥竜なり。」と。

Q「伏竜・鳳雛」は何の比喩か。

【口語訳】

あるとき、劉備が当代の優れた人物を司馬徽に尋ねた。すると司馬徽は、「（①　　）を知っている者は、優れた人物の中にあります。（②　　）に自然と伏竜・鳳雛ともい

うべき人物がおります。それは諸葛孔明と龐士元であります。」と答えた。徐庶もまた司馬徽と同じように劉備に、「諸葛孔明は臥竜に比すべき優れた人物であります。」と言った。

【書き下し文】

備　三たび往きて乃ち亮に見ふを得、策を問ふ。亮曰はく、「操　百万の衆を擁し、天子を挟みて諸侯に令す。此れ誠に与に鋒を争ふべからず。孫権　江東を拠有し、国険にして民付く。与に援けと為すべきも、図るべからず。荊州は武を用ゐるの国なり。益州は険塞にして、沃野　千里、天府の土なり。若し荊・益を跨有し、其の巌阻を保ち、天下　変有らば、荊州の軍　宛・洛に向かひ、益州の衆　秦川に出づれば、孰か箪食壺漿して、以つて将軍を迎へざらんや。」と。

Q1 「不可与争鋒（与に鋒を争ふべからず。）」のはなぜか。

Q2 「孰不箪食壺漿、以迎将軍乎。（孰か箪食壺漿して、以つて将軍を迎へざらんや）」とは、どのようなことを言おうとしているか。

【口語訳】

劉備は（①　　　　）も諸葛亮のもとを訪れてやっとのことで亮に会うことができ、天下を統一し、衰えて力のなくなっている漢の王室を復興させるための方策を尋ねた。諸葛亮は、「魏の曹操は百万の大軍をしたがえ、（②　　　　）しています。このような情勢では、とても曹操と敵対すべきではありません。一方、呉の孫権は江東を根拠地として領有し、国の地形が険しく、その上、（③　　　　）ております。したがって孫権とは一緒に助け合うべきでありますが、（④　　　　）とすべきではありません。またこの荊州は兵を動かすのに適した国であります。それに対して益州は（⑤

もし荊州・益州を合わせて領有し、その要害の地を確保し、天下に変事が起こったならば、荊州の軍は宛・洛の地に向かい、益州の軍は秦川の地方に討って出たならば、（⑦　　）地であります。

（⑧　　）が竹の器に飯を盛り、壺に飲み物を用意して、将軍を出迎えない者がおりましょうや、（　　）。」と答えた。

【書き下し文】

備曰はく、「善し。」と。

亮と情好日に密なり。曰はく、「孤の孔明有るは、猶ほ魚の水有るがごときなり。」と。

【口語訳】

劉備は、「善い策である。」と言った。

その後、劉備と諸葛亮とは日増しに親密の度を加えて行った。そして劉備は、「私にとって孔明がいるということは、ちょうど魚にとって（①　　）、なくてはならない人物を得たようなものである。」と言った。